

# 孫の手通信



第18号

平成23年10月5日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

## 庁舎建設の基本的な考え方

一宮町長 玉川 孫一郎

昭和42年に建設された現庁舎は、大きな地震がくると倒壊する危険性があること、行政機能の増大により手狭になったことにより十分な行政サービスを提供できないことから早急に新庁舎を建設する必要があります。

そのため、町内の各団体の代表者や学識委員、公募による委員など10人の委員で構成する一宮町庁舎建設検討委員会を組織し、平成22年8月から平成23年3月まで8回にわたる会議を開催し、庁舎建設の基本的な考え方について意見をいただきました。

一宮町庁舎建設検討委員会の答申を受けて、庁内に一宮町庁舎建設推進委員会を設置し、具体的な項目について作業を進めてきました。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の教訓を生かして、建設場所や建設方法を再度検討し、このほど素案としての新庁舎建設基本構想・基本計画をまとめましたので町民の皆様にご覧いただけます。(具体的な内容については、町の広報誌「一宮9月号」と町のホームページに掲載していますのでご覧ください。)

いうまでもなく役場の庁舎は、町の行政サービスの中心であり、災害時には災害対策本部の機能を担う大事な役割を果たします。その建設問題は、将来にわたって今後一宮町が発展していく姿を考えながらすすめていくべき重要な問題です。

新庁舎の候補地、建設方法については、町内に様々な意見があり、これをひとつに取りまとめることは、決して容易なことではないと考えています。そこで10月10日に住民説明会を開催し、町役場が持つている全ての情報を公開します。

そして9月21日から実施しているパブリックコメントで広く意見をくみ上げ、庁舎建設の参考に致します。

このように重要な庁舎建設について、町民の皆様にも一緒に考え、意見を寄せていただくことを通じて、理解と納得を得ながら新庁舎の建設を進めてまいります。

### 住民説明会のお知らせ

庁舎建設の基本構想・基本計画(素案)の内容について説明会を開催します。

日時 平成23年10月10日(月・祝) 午後6時より  
会場 ホテル一宮シーサイドオーツカ・アルファプラザ  
4階フエニックスホール

## 緊急津波避難マップの配布

東日本大震災の津波被害を教訓に避難場所を大幅に見直した緊急津波避難マップを作成し、区長さんを通じて全世帯に配布しました。

前回配布したハザードマップでは、一時避難場所は9ヶ所でしたが今回は17ヶ所に大幅に増やしました。又町内を流れる一宮川の北部は、一時避難場所が少ないため、長生村の八積小学校を一時避難場所に指定しました。

津波の一番の対策は、早めの避難です。津波がきたらどこに避難するか、どこで落ち合うか、緊急津波避難マップを囲んで家族で話し合ってください。

## 役場庁舎大幅節電

東日本大震災の影響による電力不足を受け、役場では7月1日から9月30日までの間、節電対策として半ズボンやポロシャツで執務を行う「スーパークールビズ」を導入し、冷房の原則不使用や電気のスイッチをこまめに切るなどの節電に取

り組みました。

その結果、役場庁舎については、7月と8月の電気使用量が対前年同月比46パーセントの減となりました。政府による電力使用制限令は、解除されましたが、引き続き節電に取り組んでまいります。

## 9月定例議会

9月15日に9月定例議会が開催され、一般会計補正予算案ほか上程された全ての議案が可決されました。

## 渡邊さんを教育委員に選任

10月1日付で渡邊 恵之助さんを教育委員に選任しました。渡邊さんは、一宮町宮原の愛光保育園の園長として活躍されています。任期は、4年間です。

## 役場宿直業務の民間委託

役場職員が行ってきた夜間の宿直業務を10月から民間警備会社に委託します。これにより夜間は専門業者による安全が図られるとともに、職員は宿直業務から引き続き昼間の勤務に就くことがなくなり、職員の健康管理も改善されることとなります。

なお、戸籍の届出、証明の夜間交付は今までどおり行います。

## 新にここサービス 1日前予約がスタート

65歳以上の住民と身体障害者を対象とした新にここサービスは、今まで利用日の3日前に予約する必要がありましたが、10月3日の受付分から前日の午後3時までに予約すれば利用できるようになりました。また診療後、病院から連絡すれば1時間以内にご利用できるようになりました。

お買い物に、通院に、外出に一層便利になった新にここサービスをご利用ください。

# 子どもたちの学びの場に

## 一宮「ニコニコひろば」初開催



ゆで卵の殻むきを手伝う子どもたち＝一宮町一宮の9区1集会所

一宮町一宮の「9区1集会所」で、子どもたちを中場「ニコニコひろば」(木)村博会長が初めて開かれた。同日、一宮の西部地区に当たる8・9・10区の交流の場として、月1回以上の活動を予定している。ニコニコひろばは、地域で小学生の子育て活動を行い、活動を通じて大人も子どもも成長できる場をつくらんと開設した。古くからの農家や商家などといった旧住民と、快速の終点である利便性やサーフィンの聖地であることから移住した新住民が混在する同町の、交流を通じたコミュニティづくりを目指す。元町立一宮小学校長の同会事務局長、河野敏夫さん(仮名)は「3年生書写やボウリング、アソビで、子どもたちと触れ合いながら学ぶ機会がある場をつくりたい」と意気込みを語った。

当日は、子どもたち約20人、地域住民約25人が参加。子どもたちは参加者が持ち寄った材料でカレイ作りを体験した他、夏休みの宿題を教わる勉強会も行われた。ボランティアとして参加した松戸市の聖徳大寺学童部2年、杉谷実咲さん(20)は「実家のある地元で子どもたちと話せて楽しい。2年後に教育実習をするので、事前勉強の機会になる」と笑みを浮かべた。

今回のニコニコひろばは18日、同所で絵手紙作りを行う。問い合わせは河野さん(0475)(42)5330。

平成23年8月22日 千葉日報

# 行灯が照らす「月見の宴」

一宮海岸で 雅楽奉納



行灯が照らす中、雅楽を奉納する玉前雅楽会＝一宮町の一宮海岸

一宮町の一宮海岸で、玉前雅楽会(鴨原孝会長)に150人の観客が訪れ、行い伝統の音色に酔いしれた。雅楽「月見の宴」が灯(あんどん)が照らす幻た。

玉前雅楽会は、玉前神社で雅楽を奉納している団体。演奏会は、海上に浮かぶ夜の月に折りをききながら行われ、16回目。当日は、雅楽会の会員約20人が「林歌」や「越天楽(越殿楽)」などの曲目を演奏した。奏者の様子が行灯の灯(ともしび)で浮かび上がり、幻想的な雰囲気を出した。鴨原会長は「月に奉納するため後を向いているが、観客に本物の雰囲気を感じてもらいたい」と話した。

玉前雅楽会は現在、会員を募集している。問い合わせは玉前神社事務所(0475)(42)2711。

平成23年8月24日 読売新聞

# 新聞紙で即席スリッパ

一宮で防災研修会



新聞紙を折って即席スリッパを作る参加者(22日、一宮町で)

新聞紙で即席のスリッパを作るといった災害時役立つ生活用品を作る。生活用品を作る。研修会が22日、一宮町で開かれた。

主催した一宮町ボランティア連絡協議会が定期的に開く研修会で、大震災以後

新聞紙で即席のスリッパでは初めて。今回のテーマは「計画停電の際に役に立った」と好評だったため、今回も同じテーマで研修会を開いた。参加した約50人は、新聞紙を折り紙のように折り即席のスリッパを作り、風呂敷を使ったリュックサックの折り方を勉強した。

同協議会は現在、町内の19のボランティア団体約340人が加盟。年に2回研修会を開いている。

同協議会の柳沢伸子会長は、「普段から防災に対する意識を高めていけば、被害は小さくできる。今後、防災意識を高める研修会を開きたい」と話した。

# 最近の新聞より

平成23年8月8日 千葉日報

# 復興願い5千発

## 一宮で納涼花火大会

一宮町の一宮海岸で6日、復興支援として一宮町納涼花火大会町1ルを送りたいと、例年通り観光協会主催、町共催が協賛金を集め、開催にこぎ着けた。玉川孫一郎町長は「自粛という声もあつたが、大会を通じて被災者を元気づけたい」と実沼市の花火業者を使って花火を決めた」とあいさつした。

今年も、宮城県岩沼市の花火業者「佐藤煙火」が花火を担当。人気キャラクターの形の花火など、技巧を凝らした花火が数多く打ち上がった。

一宮町納涼花火大会は、別招待した。復興員からの避難者も数多く特別招待した。

海水浴シーズンの一宮町最大のイベント。県内の大型花火大会が相次いで中止上がった。



水中花火が海岸を彩った一宮町納涼花火大会＝6日、一宮海岸

平成23年9月23日 毎日新聞

# 一宮町が新庁舎計画

## 災害時「対策本部の機能確保」

一宮町は20日、新庁舎建設に向けた基本構想・計画の案を公表した。築44年の現庁舎は震度5以上で一部崩壊の恐れがあり、さらに東日本大震災の教訓を踏まえ、「災害対策本部の機能確保のために早急な建て替えの必要がある」と(玉川孫一郎町長と判断した。13年度内の着工、完成をめざしている。

現在の本庁舎は1967年着工、鉄筋コンクリート階建て、延べ床面積約1000平方メートル。老朽化が進み、手狭な状態となっており、新庁舎建設は懸案となつた。町は昨年から町民代表を含む庁舎建設検討委員会を設置し、案をまとめた。

案によると「災害時の対策本部としての機能を備える施設」が新庁舎の基本

# 津波想定10メートル以上



13年度完成目標

敷地は海岸から約200メートル以内にある。大震災の教訓から津波の想定高は約10メートル以上と想定されている。敷地は海岸から約200メートル以内にある。大震災の教訓から津波の想定高は約10メートル以上と想定されている。

以上とし、新庁舎は津波避難者の一時避難場所としての機能も果たす。

業者は企画立案を受けて発注するアポロ方式で選定。事業化はリース方式で行い、業者側が建設資金・設計・維持管理を一括で行い、町側は対価をリース料として支払う。リース期間は概ね5年で終了し、その後、建物が無償譲渡される。業者の「低炭素」をアピールし、コスト削減のメリットがあるという。

総事業費は6億5000万円。起債や借入れはセゾホールディングスから後継として10月10日午後6時から住民説明会を実施するなど意見を募集する。

【吉村建一】